



山田 俊穂 さん

電気電子工学科※1 [4年]
大阪府立生野高校出身

社会に欠かせない電気電子を学び、人々の生活をより豊かにしたい

プログラミングに興味があったものの、将来就きたい具体的な職種は決まっていなかったので、幅広い分野について学ぶことのできる電気電子工学科※1を選びました。学科での学びを深めるにつれ、スマートフォンや家電製品といった身近なものから自動車や医療機器、インフラなど、電気電子の分野が社会に欠かせないものであるということがわかりました。また実験や研究を通してチームで協力をして課題に取り組む力など、社会で求められるスキルも身についたと感じます。好きな講義は『エンジニアリングデザイン実験』。この講義では少人数のチームで研究を進めて成果を発表したことが、貴重な経験となりました。将来は人々の生活をより豊かなものにするための貢献がしたいです。

【山田さんの卒業研究テーマ】様々な時間帯における雷の特性

山田さんの時間割（1年次）

時限	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	電気電子工学概論	英語演習1		英語演習1	
2	電気回路I	フランス語総合1	微分積分学I		環境と社会
3	線形代数Ⅰ	オーラルイングリッシュ1	情報処理基礎		
4		基礎ゼミ1※	コンピュータ概論		基礎物理学および演習
5			技術と倫理		

※現在科目名変更（旧科目名で表記）

目標とする資格・検定

所定の単位修得で取得できる資格

- 電気主任技術者（第一種～第三種）※2
- 海上特殊無線技士（第二級・第三級）※3
- 高等学校教諭一種免許状（数学／理科／情報／工業）
- 図書館司書
- ITパスポート
- 基本情報技術者

関連の深い資格・検定

- 電気工事士（第一種・第二種）
- 電気工事施工管理技士（1級・2級）
- 公害防止主任管理者
- ボイラー技士
- FE（Fundamentals of Engineering）
- 危険物取扱者
- 技術士 など

※1 2022年4月 電気電子通信工学科に名称変更 ※2 指定された単位を修得して卒業し、法令に定められた実務経験の後、申請により取得可能 ※3 指定された単位を修得して卒業することで、取得可能

学科名称も変更し、通信工学の更なる強化を

2022年4月から名称変更した電気電子通信工学科では、幅広い学びのニーズに対応できるように、「パワーエレクトロニクス・電工学」、「エレクトロニクスマテリアル」、「オプトエレクトロニクス」、「メカトロニクス」、「情報・通信」の5分野について学ぶことができます。これらの分野について共通する基礎知識を学びながら、学年が上がるにつれ専門性を高めていきます。実験・実習は講義と連動しており、講義で学ぶ内容は実験・実習で確認することができます。実践的に理解を深めるカリキュラムによって、基礎技術から先端技術までの教育を系統的に行います。

多様なエレクトロニクスの技術ニーズに対応して、社会に貢献できるエンジニアになる

エレクトロニクス技術はその飛躍的な進歩により、ユビキタスコンピュータ、次世代高速通信ネットワーク、光・レーザー技術、パワーエレクトロニクスなど、多面で応用され、日本をはじめとする世界の技術発展の中心的な役割を果たし、いまやすべての産業において欠くことのできない基盤技術となっています。電気電子通信工学科は、「幅広い専門知識を活用し、さまざまな課題に意欲的・継続的に取り組むことができるエンジニアの育成」を学科の理念とし、社会に貢献できる人材の育成をめざします。

※カリキュラムは2025年度のもので、2026年度は変更になる場合があります。 ※[]内の数字は単位数

カリキュラム

総合エレクトロニクスコース 私たちの生活に必要不可欠な電気。社会が求める技術者をめざします

JABEE 2027年度
まで認定
(P.58参照)

専門科目	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
必修科目	プログラミング実習Ⅰ[2] 電気回路Ⅱ[2] 電磁気学Ⅰ[2]	電気電子通信工学実習Ⅰ[1] 基礎電子回路[2] 電磁気学Ⅱ[2] 電気電子通信工学実験[2]	エンジニアリングデザイン実験[2] 卒業研究ゼミナールⅠ[1] 総合エレクトロニクス実験[3]	卒業研究[8]
必修選択科目		解析学[2] 電気数学[2] 確率統計[2]		
選択科目	電気電子通信工学概論[2] 電気回路Ⅰ[2] コンピュータ概論[2]	プログラミング実習Ⅱ[1] 電気回路Ⅲ[2] 電気計測[2] 電気物性概論[2] ものづくり実習[2] 電磁気学Ⅲ[2] 電気回路Ⅳ[2] 電気電子材料[2] ものづくり概論[2] アナログ電子回路[2] 論理回路[2] 高電圧・プラズマ工学[2]	CAD実習[2] 半導体工学[2] 制御工学基礎[2] エレクトリックヴィークル[2] 電気法規・施設管理[2] 発電工学[2] エネルギー伝送工学[2] オプティクス[2] センサ工学[2]	音響工学[2] パワーエレクトロニクス[2] PICK UP! 3 分析工学[2] オプトエレクトロニクス[2]

PICK UP! 1

光・レーザー工学

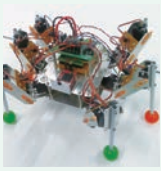
身近な電気電子機器は光・レーザーを根幹デバイスとして用いています。この科目では光・レーザーの基礎とその応用を学び、優れた新製品を生み出す可能性を導きます。



PICK UP! 2

メカトロニクス

今では身近なロボット。それは機械的な微動機構と電子的な制御機構によって成り立っています。この講義では、システム技術の基本から応用までを学びます。



PICK UP! 3

パワーエレクトロニクス

電気をエネルギーとしてとらえている、生活に必要な不可欠な産業用・家庭用・自動車用電力機器の構造やその制御方法についての基礎知識に関する講義です。



電子情報通信コース ユビキタス社会の実現に向け、先端エレクトロニクス技術、情報通信技術を体系的に学習・研究します

JABEE 2027年度
まで認定
(P.58参照)

専門科目	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
必修科目	プログラミング実習Ⅰ[2] 電気回路Ⅱ[2] 電磁気学Ⅰ[2]	電気電子通信工学実習Ⅰ[1] 基礎電子回路[2] 電磁気学Ⅱ[2] 電気電子通信工学実験[2]	エンジニアリングデザイン実験[2] 卒業研究ゼミナールⅠ[1] 電子情報通信実験[3]	卒業研究[8]
必修選択科目		解析学[2] 電気数学[2] 確率統計[2]		
選択科目	電気電子通信工学概論[2] 電気回路Ⅰ[2] コンピュータ概論[2]	プログラミング実習Ⅱ[1] 電気回路Ⅲ[2] 電気計測[2] 電気物性概論[2] ものづくり実習[2] 電磁気学Ⅲ[2] 電気回路Ⅳ[2] 電気電子材料[2] ものづくり概論[2] アナログ電子回路[2] 論理回路[2] アルゴリズムとデータ構造[2]	CAD実習[2] 半導体工学[2] 制御工学基礎[2] 通信方式[2] PICK UP! 1 デジタル電子回路[2] 情報理論[2] 電磁波工学[2] 組込みシステム概論[2]	音響工学[2] デジタル回路設計実習[2] 画像・映像工学[2] PICK UP! 3 量子コンピューティング[2] 情報と職業[2]

PICK UP! 1

通信方式

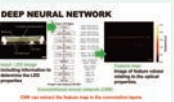
通信システムを自在に設計し、最新の技術を活用し続けられる力を養うために、信号の変調技術としてアナログ変調方式およびデジタル伝送方式を中心に学習します。



PICK UP! 2

機械学習システム

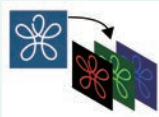
機械にいろいろな経験・学習をさせることにより、自動でさまざまな問題を改善させるシステムやコンピュータアルゴリズムの基礎を学ぶ講義です。



PICK UP! 3

画像・映像工学

映像機器が身の回りのさまざまな電子機器に搭載されはじめ、多くの領域で画像処理技術が用いられるようになってきています。色など光の基礎的な知識から、画像に関する全般的な知識を学びます。



TOPICS

強電分野の学習環境を強化

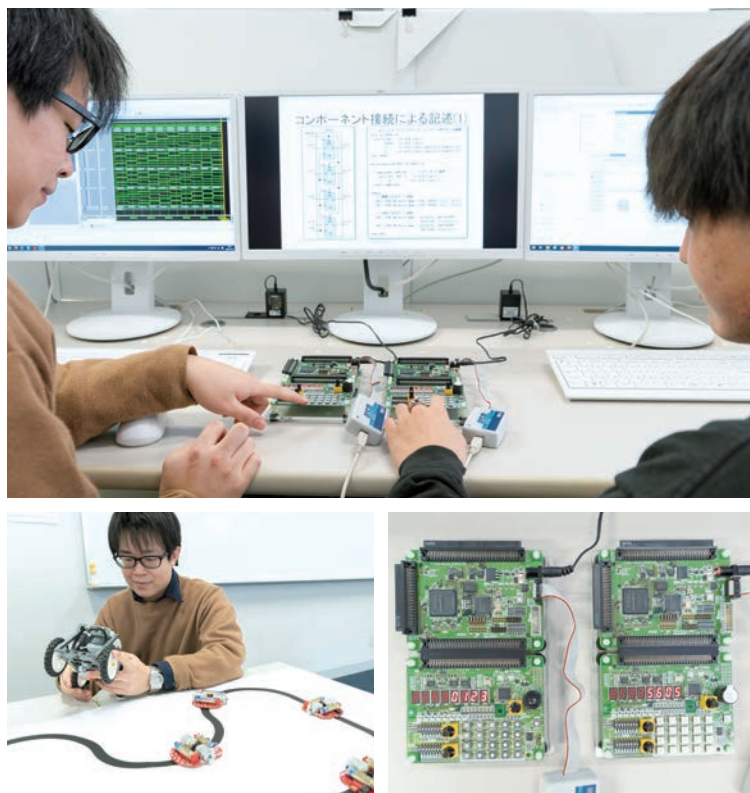


電気電子通信工学科では、2018年度に高電圧実験装置、2020年度にモータやシーケンス制御の実験装置を刷新し、強電・電力工学関連の実験実習設備が大変充実しています。これらの装置は主に総合エレクトロニクスコースの全員が履修する実験科目で使用し、前者では、実験室内で最大200kVの高電圧を発生し、絶縁物の絶縁破壊や耐電圧に関する実習を行います。後者では、各種のロータやステータを組み合わせて、各種のモータを実現することができ、その仕組みや制御、計測方法などを学びます。使用を誤れば大きな事故にも至りかねない強電分野について、安全に正しく扱う知識や技術を習得します。近畿大学は電気事業法の規定に基づく電気主任技術者認定校です。電気電子通信工学科で開講する所定の科目の単位を修得して卒業し、一定の実務経験を積むと電気主任技術者資格の国家資格認定を受けることができます。電気設備を設けている事業主は、工事・保守や運用などの保安の監督者として電気主任技術者を選任することが義務づけられており、社会的需要と評価が高い資格と言えるでしょう。

TOPICS

IoT、AI時代に不可欠となる専用デジタル電子回路と設計・制御言語を学習

IoT、AI時代には、汎用のコンピュータに追加する形で、低消費電力で動作し、同時に高性能で通信処理、認識処理を行うための専用回路が必要となります。専用回路を設計するために、言語ベースで回路設計をする方法を学習し、ボード上で動作を確認します。また、組み込み用マイクロコンピュータをプログラムによって自由自在に操り、ロボットを意のままに動かすための制御技術を身につけます。



研究室紹介

レーザー工学研究室

各種レーザー装置の開発



中野 人志 教授

新型レーザーの開発やレーザー光線を使った新しい機能性材料の開発、パワー半導体を使った電気エネルギーの効率的な供給など、レーザーおよび電気エネルギー制御に関する研究に取り組んでいます。

機能光回路研究室

光に関する最新の研究と
基礎的な知識が
自然と身につく環境



吉田 実 教授

光通信だけではなく、光ファイバーを用いた新型レーザーの開発などを軸に、可能性を持つ光について基礎と応用を研究し、新しい光技術の開拓を進めています。光の未知な現象から発見を楽しめます。

医療情報学研究室

IT技術で
快適な医療空間の
創造をめざす



大星 直樹 教授

安全に、また医師や患者に負担をかけずに情報技術を医療に応用する。そのためのユビキタス・コンピュータ、高度な画像・映像処理、わかりやすいインターフェース技術について研究しています。

集積システム設計工学研究室

IoT、CPS時代を支える
集積システムの設計および
その設計手法を研究



武内 良典 教授

組み込みシステムはVLSIの活用が不可欠であり、目的に応じて、低消費電力、低エネルギー、高信頼性、高性能などの設計目標を設定し、最適化する必要があります。組み込み集積システムを設計するためのメソッドロジーの研究とその手法を活用した実際の組み込みシステム設計を行います。

リモートセンシング工学研究室

リモートセンシング研究を
通して安全・安心な
社会を実現



森本 健志 教授

電磁波の放射などの特性を用いて、対象物の性質を遠隔から計測するリモートセンシング技術を応用し、災害を引き起こす現象や地球環境などを観測対象とした、機器の開発や観測、解析を行っています。

材料プロセス工学研究室

新しい材料を
つくって、測って、利用する



松谷 貴臣 教授

新しい電子部品となる新材料の開発や、その材料を簡単に作製するための技術を開発しています。また、それら新材料を利用し、大気分析や触媒反応の観察など新しい分析技術の開発も行っています。

情報システム工学研究室

人間が行う知的処理を
コンピュータで実現



湯本 真樹 教授

課題発見・解決策の立案など、人間の知的作業をコンピュータで代替させるため、情報・知的処理技術とシミュレーション・最適化技術などのシステム技術を融合する手法を用いた研究を行っています。

機能性デバイス研究室

半導体プロセスを駆使して
センサーデバイスを開発



松田 時宜 教授

新しい概念のセンシングデバイスを開発・応用することをめざします。そのためのセンサーを設計し、半導体デバイスの微細加工プロセスを駆使して作製します。

光エレクトロニクス研究室

光信号で光信号を
コントロールする、
光版トランジスタの研究



前田 佳伸 准教授

光信号でさまざまな信号処理を行う光エレクトロニクスの分野に必要な光トランジスタの研究を行っています。将来的には光コンピュータの開発をめざしています。

ソフトコンピューティング・光学設計研究室

人工知能で
LEDをより明るく!



柏尾 知明 准教授

人工知能技術を代表する機械学習を応用して、LEDパッケージングの光学設計を最適化する方法を研究しています。構造や材料を工夫することで、少ない電力でより明るくすることをめざしています。

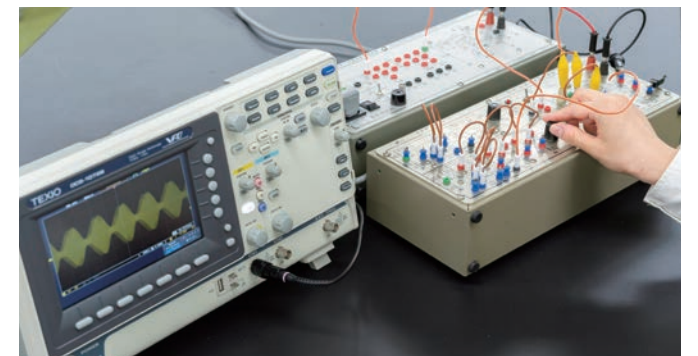
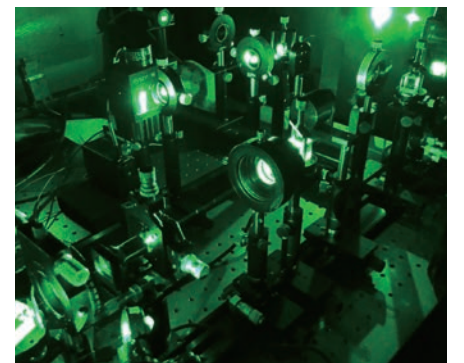
CAE-AI研究室

電気機器の
設計を全自動に



菅原 賢悟 准教授

シミュレーションを活用した設計技術であるComputer Aided Engineering (CAE)は、近年急速に電気機器設計の現場で普及しています。CAEと人工知能 (AI) をかけ合わせることで、電気機器設計の全自動化をめざしています。



※研究室は2025年度のもので、2026年度は変更になる場合があります。

研究室紹介

光情報材料研究室



液晶で未来を開く！

中山 敬三 准教授

ディスプレイに広く使われている液晶材料を、光を操るための光学素子に応用する研究や、光を用いた情報処理を応用したセキュリティシステムの研究などを進めています。

量子情報デバイス研究室



量子デバイスによって
情報社会の新時代を支える

大西 紘平 准教授

「量子情報」には幅広い知識・技術が必要とされています。将来を有望視されている超伝導デバイスを中心に、量子情報デバイスへさまざまな角度からアプローチし、その実現に向かって研究を進めます。

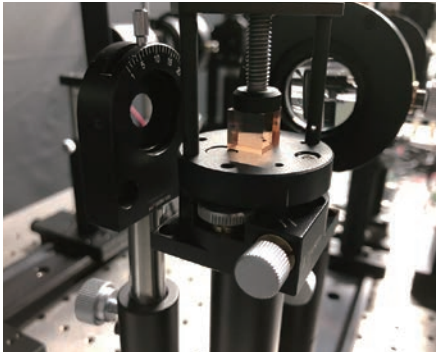
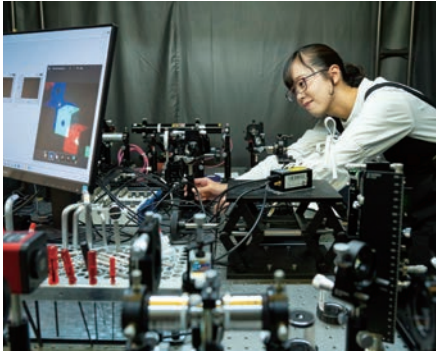
ハザード認知情報システム研究室



災害対策や社会課題解決に
新たなシステムを提案！

蔭山 享佑 講師

災害、犯罪、社会課題などが近年増加しており、情報システムによる新たな対策の提案が必要となっています。モバイル端末に内蔵するプロセッサの開発からアプリケーションの提案・構築まで、幅広い研究をめざしています。



フォトニクス工学研究室



光で見る、測る、記録する

吉田 周平 准教授

ホログラフィ技術を応用した次世代光メモリスシステムを中心に、光の持つさまざまな性質を利用した計測技術、表示技術、可視化技術、情報ストレージ技術についての研究・開発に取り組んでいます。

光プロセス工学研究室



「光」・「レーザー」を
身近なものに

津山 美穂 講師

光やレーザーを用いた応用は、私たちの身近に使われている技術から、大規模な装置を必要とする技術まで多種多様です。新しい技術を開拓したり、既存の技術をより良いものとするための研究に取り組んでいます。

デジタル制御研究室



システムの表現を
簡単にする方法の研究

天野 亮 助教

ロボットなどを思い通りに動かすことを制御といい、その制御に関する研究をしています。ロボットなどの動作を表す数式を簡単にする方法を探り、卒業研究ではロボットを用いた実習も行っています。

電気エネルギー変換研究室



電気エネルギーを
変幻自在に操る

南 政孝 准教授

どうすれば沢山の電気エネルギーを取り出せる？生み出せるのか？どうすれば効率よく電気エネルギーを送れるのか？どうすれば省エネに電気製品を動かせるのか？そのような課題にこたえるための電気エネルギー変換技術を研究しています。

光情報通信研究室



光を用いて、
遠隔地の物理現象を測定し、
伝達する

堤 康宏 講師

光ファイバをセンサとして用い、さらにセンサ信号の通信路として利用する光ファイバセンシングや光ファイバ通信など、光計測技術や光通信技術に関連する研究に取り組みます。

電子制御工学研究室



社会の縁の下の
力持ちを研究

谷本 浩一 助教

新幹線やエレベータなどの動力源となっている誘導モータを正確にコントロールする方法や、エアコンなど工業製品に組み込まれているマイクロプロセッサに関する研究を行っています。

TOPICS

深刻な雷災害に悩むマレーシアの防災に貢献

近畿大学理工学部電気電子通信工学科を代表機関として、年間の発雷日が200日を超え、深刻な雷災害に悩むマレーシアのマラッカ海峡沿岸地域を対象に、世界最高峰の雷観測網を構築し、発雷予測などの実現によって防災に貢献することをめざす国際共同研究「持続可能なエネルギー供給と極端気象災害の早期警報のための電荷分布リアルタイム3Dイメージングと雷活動予測」が進行中です。本研究ではまず、雷の前兆となる雲内の微小放電の開始からその進展路を詳細に観測するVHF（超短波）帯と、広域の雷活動全体を隈なく観測するLF（長波）帯を両輪とする電磁界観測網を構築します。雷放電がどこで始まり、どのように進展し、どこで終わるのかについて、3D観測データを高速処理して雲内の電荷分布と中和される電荷量を推定し、高構造物とロケット誘雷で直接計測する雷撃電流波形で検証します。また、電磁界計測および雷撃電流計測によって、雷放電に関わる空中の電荷挙動を網羅的に捉え、その情報に基づく雲内電荷分布推定と発雷予測を実現します。さらに、IoTやAIを活用した送配電線網や電力機器の制御、極端気象災害の早期警報の社会実装を進めるとともに、誘雷による能動的耐雷・避雷対策についても研究します。



※研究室は2025年度のもので、2026年度は変更になる場合があります。

卒論テーマ紹介

機能光回路研究室

次世代型高性能ファイバレーザの研究

光ファイバは、光をガラス繊維の中に閉じ込めて遠くへ送るための伝送路です。通信用に利用されていた光ファイバに光を増幅する能力を持たせることで、光の波の性質を利用した新しい機能を持つレーザの実現に成功しました。たとえば、光の速度でさえも0.03mm程度しか進むことのできない短い時間幅の光パルスの発生や、光の波の位相を数十nmの高い精度で制御する技術の開発により、高性能な新しいレーザの研究を進めています。

ソフトコンピューティング・光学設計研究室

AIを用いた白色LEDパッケージングのサロゲートモデリング

白色LED（発光ダイオード）は、電子機器、照明、自動車などさまざまな用途で使われており、明るさや性能の向上が求められています。より明るいLEDを設計するためには、計算機上でのシミュレーションが欠かせませんが、手動で行うと長い時間と大きなコストがかかります。そこで、シミュレーションの代わりに、AIを用いて白色LEDパッケージングのモデリングと計算を行うことで、より明るい設計や設計時間の短縮、コスト削減を実現することをめざしています。

フォトニクス工学研究室

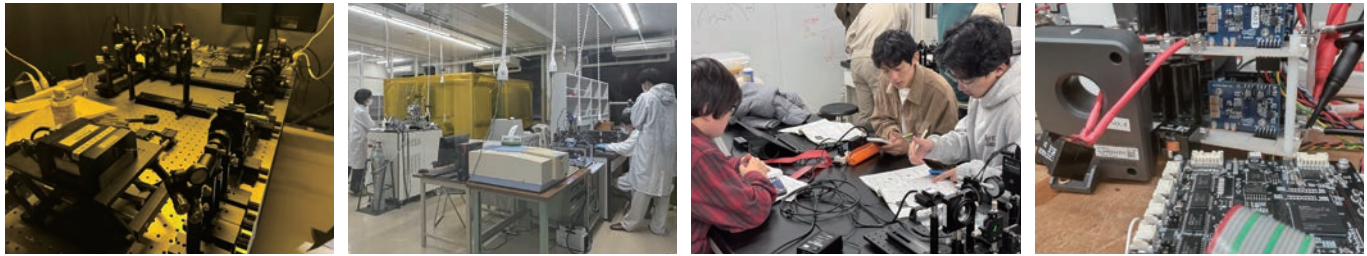
液晶リタードを用いた位相シフトデジタルホログラフィック顕微鏡の検討

電磁波の一種である光は、振幅と位相という2つの情報を持っています。写真はこのうち振幅を記録する技術ですが、光の干渉縞を記録するホログラフィでは振幅と位相の両方が記録可能です。そのため、ホログラフィでは物体の3次元的な情報を記録できます。ホログラフィを応用した計測技術であるデジタルホログラフィについて、これを応用した顕微鏡システムや、高速・高解像度化をめざした光学系の研究・開発を進めています。

光プロセス工学研究室

レーザーピーニング処理技術の高効率化

刀鍛冶が金づちで金属を鍛えるように、レーザーを用いて金属を丈夫にすることができ、その表面処理技術を“レーザーピーニング”と呼びます。金属疲労の改善や応力腐食割れの防止策として、航空機部品や原子力発電所などの高い信頼性が要求される部分に応用されていますが、レーザーピーニング処理技術の高効率化を実現させることで、一般的な産業応用に適用可能な技術として成熟させるための研究を行っています。



将来の進路

エレクトロニクス系技術者の求人が増加。大学院進学者も増えてきています

電気・電子関連産業や情報産業を中心に、製造業・化学工業・建設など、さまざまな分野でエレクトロニクス関連技術者へのニーズが高まっています。電気電子通信工学科への紋る求人企業も多く、民間企業志望者が高い割合で内定を獲得しています。また、技術者・研究者としてさらなるステップアップを見据え、大学院への進学を選択する学生も増えており、近年は3割ほどの学生が進学しています。主な進学先としては、近畿大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学などがあります。

